

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

<p>学校名 <b>佐賀県立三養基高等学校</b></p>	
<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>「SAGAスマート・ラーニング(S・S・L)」事業の最終年度であった前年度は、地域との関わりをこれまで以上に深め、当校教育活動への協力体制を確立することができた。また、SNS等の広報の充実により学校の認知度が高まり、志願者増の一因となった。学力の向上については、進学面の対応はよくできているものの、家庭学習の充実に課題が残った。前年度の成果をもとに各分野・学年でそれぞれの取組を検証し、今年度更なる改善に取り組んでいきたい。</p>
<p>2 SAGASクール・ミッション 学校教育目標</p>	<p>【スクール・ミッション】 ○旧制三養基中学校創設以来培ってきた地域との協働による学びを深め、地域社会に貢献する人材を育成する。 ○福岡・外人生徒等の教育拠点校として、多文化共生教育を推進する。 【学校教育目標】 平和な国家及び社会に有為な人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養を通して、知・徳・体の調和のとれた教育を目指す。</p>
<p>3 スクール・ポリシー</p>	<p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三養基高校で学びたいという強い意志を持ち、学習習慣と基本的な学力を身につけた生徒を求めます。</li> <li>中学校で学校行事や部活動等に積極的に粘り強く取り組んだ生徒を求めます。</li> <li>高校生活を通して自主自律の精神を養い、これからの社会に貢献していこうとする意欲を持った生徒を求めます。</li> </ul> <p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に学習を進める場面を重視し、言語能力、思考力、表現力等を育む授業を行います。</li> <li>「総合的な探究の時間」に「地域課題研究」に取り組み、地域の課題を発見し、解決策を探る中で探究的な学びを深めます。</li> <li>講演会や「進路研究」、担任による個人面談等を通して、3年間を見通した進路指導を実施します。</li> <li>学校行事、生徒会活動、部活動等を充実させ、生徒の主体的な取組を支援します。</li> </ul> <p><b>グラデュエーション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いに違いを認め合い、共に生きる社会を築いていこうとする態度を身につけます。</li> <li>自主自律の精神、目標に向けて努力を貫徹する力、未知や困難に対して果敢に挑戦する精神を身につけます。</li> <li>幅広い進路先で活躍するための、確かな学力を身につけます。</li> <li>社会への関心を高め、課題の解決に協働して取り組む力を身につけます。</li> </ul>
<p>4 本年度の重点目標</p>	<p>① 自主自律と相互尊重の精神を備えた生徒の育成 ② 主体的・対話的で深い学びの充実による学力向上 ③ 特別支援教育と多文化共生教育の推進 ④ 地域・家庭・同窓会との連携</p>

5 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価
●学力の向上	○家庭学習の充実 ○教員の指導力向上	○学校評価アンケートの「家庭学習の取組」の項目において、良い・ほぼ良いと回答する割合を、職員・生徒・保護者すべての割合を70%以上にする。 ○家庭学習(平日)2時間以上の生徒の割合を80%以上にする。 ○授業評価の「授業は理解できていますか」の項目において「理解できている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	・完全下校の時間(19:20)を厳守させることで、帰宅後の学習時間の確保を図る。 ・日々の記録やクランナーなどを用いて生徒の生活リズムを把握し、面談等を通して学習習慣の定着を図る。 ・教員1人1人が教材研究を徹底して行いICT機器等も効果的に使用することで、わかりやすい授業を実施する。	B	・家庭学習時間については、できていない生徒は、帰宅後の学習時間の確保を図る。 ・日々の記録やクランナーなどを用いて生徒の生活リズムを把握し、面談等を通して学習習慣の定着を図る。 ・平日2時間以上学習している生徒は、定期考査前はかならないが、考査期間外はしていない生徒もかなり存在している。	B	・アンケートの「家庭学習の取組」の項目において、良い・ほぼ良いと回答した割合が職員で80%、保護者で70%であったが、生徒自身で異なる職員・保護者の認識と生徒の認識は異なっており、課題を残した。 ・平日2時間以上学習している生徒は、定期考査前はかならないが、期間外はしていない生徒もかなり存在しており、課題を残した。 ・今後も、授業と家庭学習の充実を図り、学習内容の理解と定着につながることを意識させたい。	B	・家庭学習について生徒の自己評価が厳しいのではないと思われる。生徒の52%という結果は、これからの生徒の頑張りの伸びしろと考えてよいと思う。 ・平日の学習については、ルーティンとして2時間できているのであればよいと思う。
	○進路意識の啓発と進路希望の達成	○国公立大学合格者50名、有名私立大学合格者100名を目指す。	・各学年で進路講演会を実施する。 ・進路検討会(3年2回)、教科担当者会(3年1回、2年2回、1年2回)、出願検討会(3年1回)を実施し、職員間での情報共有と改善策の検討を行う。	・各学年で進路講演会を実施する。 ・進路検討会(3年2回)、教科担当者会(3年1回、2年2回、1年2回)、出願検討会(3年1回)を実施し、職員間での情報共有と改善策の検討を行う。	A	・進路講演会 3年⇒1回実施 今後も随時実施予定。 ・進路検討会(3年1回)、教科担当者会(3年1回、2年2回、1年2回)実施。情報を共有し、その後の指導に生かすことができる。	A	・進路講演会を、3年生対象に1回、2年保護者対象に1回、1年保護者対象に1回実施した。また、進路に関する小論文講演会を、3年生対象に2回、2年生対象に1回実施した。 ・進路検討会(3年)を2回、出願検討会(3年)を1回実施した。 ・教科担当者会を3年で1回、2年で2回、1年で2回実施し、情報共有を図った。 ・模試ごとに統計資料を配付し、職員間での情報共有と改善策の検討に役立てた。	A
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育全体計画及び人権・同和教育年間指導計画に基づいて授業や指導を行った教員の割合を90%以上にする。 ○学校評価アンケートの「人の役に立つ行動や集団の中での自分のあるべき姿を意欲した行動ができた」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	・各教科、特別活動、総合的な探究の時間、各種講演会、読書の時間、清掃活動などのボランティア活動、地域社会との関わりを深める取組など、あらゆる機会をとらえて心の教育を行う。 ・HR活動や総合的な探究の時間の中で、様々な活動を通して、他者理解を深める。	B	・道徳教育全体計画および人権・同和教育年間指導計画に基づいて、すべての教職員があらゆる機会に心の教育ができた。 ・学校評価アンケートの「人の役に立つ行動や集団の中での自分のあるべき姿を意欲した行動ができた」と回答する生徒の割合が60%程度にとまっている。	A	・道徳教育全体計画及び人権・同和教育年間指導計画に基づき授業や指導を行った教員の割合が99%と目標を達成できた。 ・「人の役に立つ行動ができた」と回答した生徒が52%と課題を残し、「集団の中での自分のあるべき姿を意欲した行動ができた」と回答した④とは90%と目標を達成できた。	A	・「人の役に立つ」行動については、生徒も自らはいっつらいこともあるのではないだろうか。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートの「SNSの利用に伴う自分の心身の健康や病気に対する予防や防犯の意識は高まりましたか」で、高まったと回答する生徒の割合を95%以上にする。 ○いじめの認知・認知を法のもと適切に行い、いじめの解消を100%にする。 ○いじめの重大事態を0件にする。	・防犯講話や集会等でSNSについて注意喚起し、いじめ誘発等の原因や加害者とならないための予防的対応を行う。 ・全校集会、学年集会などの講話で、他者理解をする態度や協調性の育成を図る。 ・面談等を通して、生徒と積極的に情報共有を行う。 ・いじめの対応について研修会を実施する。	A	・講話・集会等で常にSNSの利用に関して注意をした結果、現在のところ不適切利用やトラブルについては報告を受けていないので、目標の95%を達成できている。いじめに関しては、現在2件報告されたが大きな事案はなく、解消に向けて100%を達成できる。今後数値目標に追われることなく、早期発見・早期対応に努めていきたい。	A	・今年度はSNS関係のトラブルが少なく、大きな事案も起こっていないので、100%の達成率とできるだろう。しかし、この問題についてはいつどこで起きるかわからないので、事あるごとに注意をしていきたい。 ・いじめに関しては重大事案は起こっていない。3学期にも第3回を実施し、細かい事案でも学年団・部顧問と協力して対処することができた。	A	・SNS関係いじめについては、適切な指導がなされていると思われる。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒70%以上にする。 ○平均睡眠時間6時間以上の生徒の割合を80%以上にする。 ○原因と思われる内科的症状での保健室への来室者数を前年度比で90%以下にする。	・「健康に良い食事をする」と回答した生徒が90%を超え、平均睡眠時間6時間以上の生徒が80%を超えていたが、内科的症状での保健室の来室は前年度よりも微増している。秋冬の感染症予防対策を徹底するとともに、自己管理能力を高めるための情報提供を継続する。	A	・「健康に良い食事をしている」と回答した生徒が90%を超え、平均睡眠時間6時間以上の生徒が80%を超えていたが、内科的症状での保健室の来室は前年度よりも微増している。秋冬の感染症予防対策を徹底するとともに、自己管理能力を高めるための情報提供を継続する。	A	・「健康に良い食事をする」と回答した生徒が90%を超え、平均睡眠時間6時間以上の生徒の割合が75.9%となり、特に、秋以降の受験期に睡眠時間に課題がある。内科的症状での保健室来室者は前年度比で90%以下であったが、感染症予防対策には課題が残った。	A	・3年生の受験期の睡眠不足は、ある意味で候合わせとせ、自分の限界を超えるときだけは必要なかもしれない。しかし、体調だけは万全の状態であらうと願ってほしい。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・昨年度は本校で交通事故が5～6件発生したため、本年度は交通事故ゼロを目指した取り組みを強化する。 ・自転車通学路等をしかりと守らせる。 ・登下校の危険箇所を作成しクラス掲示する。 ・交通講話や生徒指導主事から注意喚起する。 ・自転車点検を徹底し未然に事故を防ぐ。	A	・今年度は交通事故ゼロに重点を置いた結果現在までに、軽度の接触が2件と昨年並みで激減している。1学期に三養基高校危険箇所マップと称して、全クラスにカラー版で掲示した。また保護者にクラスターで配信し、交通事故撲滅について呼びかけた結果だと思ふ。引き続き呼びかけをしていきたい。	A	・交通事故に関しては新たな取り組みとして、三養基高校周辺危険箇所マップを配布した。その結果事故は年間2～3件と激減した。 ・ヘルメット着用について「積極的推奨」と呼びかけたが全体で2～3人にとどまった。4月より自転車運転の罰金制度が始まるので、交通マナーについて呼びかけていきたい。	A	・交通指導や自転車マナー等については、適切な指導がなされていると思われる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規程に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を毎週月曜日に設定するとともに、長期休業中は毎日の定時退勤を推進する。 ・月45以上の時間外在校等時間が発生しないよう、業務の効率化に取り組む。 ・年次休暇を取得しやすい職場の雰囲気を作成するとともに、積極的な取得を呼びかける。	B	・8月に時間外在校等時間の上限45hを超えた職員がいたが、それ以外の月では数名の職員が超過する状況であった。 ・年次休暇を取得するよう職員に促しているが、9月時点で年次休暇取得日数が14日を超える職員は54名中4名である。	A	・定時退勤を意識する職員が増えたが、3年生担当職員は、受験指導で遅くなりがちだった。時間外在校等時間の平均が、前年度比で約4時間減少し、45h超過者は14%減少した。 ・14日以上年次休暇を取得した職員は54名中13名であった。さらなる取得推進に努める必要がある。	A	・教職員のワーク・ライフ・バランスは大切なことであるので、取組を進めていきたい。
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上にする。	・特別支援教育に関する演習を交えた研修会を実施する。 ・スクールカウンセラーとの連携を図り、関係者間で情報を共有する。	・7月に特別支援教育に関する演習を交えた研修会を実施し、その後のアンケートでは特別支援教育に関する専門性が向上しと回答した教員が94.3%にすることができた。カウンセリング利用者も増加傾向にあるので、SCとの連携を強化し、必要な情報発信に努める。	A	・「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した教員の割合が94%と、目標を達成する結果となった。 ・特別支援教育に関する研修会1回実施。 ・教育相談委員会年5回実施。 ・ケース会議1回実施。	A	・社会がインクルーシブを重視する時代になっているので、今後も特別支援教育に関する取組を推進してもらいたい。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合90%以上 ★県外からの入学者数3人以上	・みやき町役場と連携したボランティア活動等とそれに関連した教育活動を実施する。 ・HP SNSなどを活用し、学校の魅力を積極的に発信し、Instagramは即時性を重視し更新していく。 ・地域への貢献として、生徒会主体の全学年清掃活動を年間2回実施する。	B	・年度当初の計画は、着実に進んでいる。現状のペースで計画を実践していきたい。 ・11月の高校入試希望の結果を踏まえて、再度分析をし、特に県外受験者の動向について、逐次情報収集を行っている。	A	・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合88.8%、教職員の割合97.1%であり、また、県外人入学者も3名決定し、数値目標を超えた。 ・各取り組みも、積極的に実施することができ、特にボランティア活動については、生徒が意欲的に取り組み、延べ100人以上が参加した。Instagramの年間投稿数は約250回、その他のツールも含め多くの情報発信を行うことができた。		A
○福岡・外人生徒募集枠	○福岡・外人生徒募集枠における生徒の受け入れに向けた取組の推進	○募集枠について学外への周知に努める。 ○先進校視察を2校以上行う。	・学校説明会で周知する。 ・学習面、生活面の指導について校内研修会を実施する。 ・教育課程編成に向け、先進校視察を行う。	B	・福岡・外人生徒募集枠について、あらゆる機会に周知できた。 ・先進校視察を2校計画している。	A	・福岡・外人生徒募集枠について、あらゆる機会に周知できた。 ・先進校視察を4校実施し、情報収集に努めた。	A	・今後、福岡・外人生徒は徐々に増えてくるようなので、対応が必要である。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	<p>・「家庭学習の充実、教員の指導力向上」以外は成果指標が達成できていた。次年度も、課題がより明確に把握できるように成果指標を改善していく。 ・家庭学習の充実については、生徒と保護者・教職員の評価に乖離が見られた。次年度は、家庭学習の一層の充実を図りつつ、評価方法についても改善を図る。 ・国公立大学の合格者数が今年度は50名を超えることができなかった。進学指導の体制の改善と教科指導の充実を図る必要がある。 ・月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合が、さらに減少した。次年度も、さらなる業務改善を図りつつ、ワーク・ライフ・バランスを意識した取り組みを行う。</p>
----------------------	---